

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第4回）議事要録

- 日 時 平成29年7月13日（月）19時開会 21時閉会
- 場 所 武蔵野市役所 412 会議室
- 出席者 委員 14名、事務局 4名
- 小澤（紀）委員長、鈴木（雅）副委員長、大沢委員、大谷委員、
小澤（里）委員、木村委員、塩澤委員、志賀委員、新立委員、
鈴木（圭）委員、田中委員、長島委員、村井委員、郡委員
- 議事等 1 これまでの議論の振り返り
2 環境学習・啓発施設の類型について
3 運営のあり方について

1 これまでの議論の振り返り

発言者	要旨
事務局	資料1「これまでの議論の振り返り」について説明。第1回～第3回の会議で出た意見をキーワード出ししたものを、「課題・現状」「全体的な視点」「機能」「運営」「施設整備」にグループ分けをした。キーワードやグルーピングの仕方について追加や修正がある場合は、後日事務局へご連絡いただきたい。
委員長	資料1を見ても、環境というのはとても広くさまざまな見方があり、環境啓発施設の検討が大変なことだということがわかると思う。環境省の「環境白書」を見ると、循環型社会白書、生物多様性白書、環境白書の3つの白書が一緒になっており、公募で選ばれた表紙の絵も、さまざまな環境問題に触れる良い作品だった。 環境の課題は、いろいろな角度から見ると、非常に多様性に富んでいる。そういった意味で、さまざまな分野で活躍されている皆さんの多様性に富んだ価値観を生かし、住民を代表してご議論いただき、次回の視察も含めて、忌憚のないご意見をいただきたい。
副委員長	「メタボリズム」という用語は、黒川紀章など元気な建築家たちが、どんどん壊してどんどんつくるという高度経済成長期につかった言葉で、考え方の一端として紹介をした。今の時代背景とは違い、また、今は「メタボ」という言葉が違う意味で使われていることもあり、混同されると困るので、建築的な用語として適切なものがあれば、言い換えた方が良いかもしれない。
委員長	黒川紀章は生前に、『明日の田園都市』（エベネザー・ハワード著）という本を翻訳しているが、翻訳することで、メタボリズム理論的に武装したのではないかと思う。

	<p>19世紀終わりから20世紀の始め、ヨーロッパではコレラが蔓延するなど、衛生問題が大きくクローズアップされたため、その頃の都市計画の基本は健康だった。ロンドンの福祉住宅の発展に力を注いだオクタヴィア・ヒル（「住まいのナイチンゲール」と言われた女性）は、3、4軒の汚い家屋を買い取って、貧しい人たちのために、そこに住まいをつくる活動をしていた。健康面を考えてつくられており、メタボリズムというのは建築家の考え方だけでなく、時間の動きとともに変化するという捉え方で良いのではないかと思う。また、「明日の田園都市」という翻訳をみると、経営の視点がある。</p> <p>資料1の左側の「運営」の中に、「メタボリズムの考え方」と書いてあるが、時代とともに捉え方が違うし、時代とともに移り変わっていくことを視野に入れて議論していただきたい。武蔵野市に長く住んでいる方には、そういった歴史的に重なっている地層を読み分けていくことも、ぜひ考えていただけたらと思う。私は「メタボリズム」という言葉に違和感はない。</p>
委員	<p>第2回会議の、副委員長の講義で、「メタボリズム」という言葉がとても印象に残った。委員長がおっしゃったように、これで完成としない、良しとしない、環境をめぐる世界は常に変わっていき、これで終わりではなく、常に追いつけるということだと思うので、良いと思った。</p> <p>例えば、福祉の世界でいうと、最近「リハビリテーション」という言葉をよく使う。「リハビリテーション」というのは、元の状態に戻すのではなく、あるべき姿に戻すという考え方で、福祉では「地域リハビリテーション」という言い方をしているが、そういう意味では、いろいろな捉え方をされてしまう可能性があるかもしれない。「メタボリズム」についても、健康の話と混同して捉えられてしまうと誤解があるが、元の考え方は面白いと思った。</p>
委員長	<p>どの時間帯でみていくか、数字的に見ていくのか、共時的に見ていくのかは難しいが、根っことなる概念をおさえていけば、少しぶれた議論でも大丈夫だと思う。</p> <p>環境のことを考えると、映像や誌面などが、非常に断片的になっているので、さまざまなことがつながっているという発想を持っていただきたい。新クリーンセンターとエコプラザとがどういった関係性の中で、何を発信していくのかということも、視野に入れながら議論していただければと思う。8月3日は豊田市の環境学習施設を視察するが、新たな発見もあると思うので、皆さんの多角的な視点からご意見をいただけたらと思う。</p>

2 環境学習・啓発施設の類型について

発言者	要旨
事務局	資料2「環境啓発施設の視察まとめ」について説明。事務局が視察した施設の中から、規模や啓発のスタイルが異なっているものを取り上げてまとめたもの。施設の概要や運営形態についてまとめている。

3 運営のあり方について

発言者	要旨
委員長	<p>忌憚のないご意見をいただきたい。一回で決められる議論ではないと思うので、積み重ねていきたいと思う。</p> <p>先ほどご紹介があった「西宮市環境学習サポートセンター」を運営しているLEAFの代表理事をボランティアで行っている。甲子園の近くで、神戸市の持っていた施設を借用して活動している。委員の中には施設の視察をしている方もいらっしゃると思うので、経験も踏まえて、お話いただきたい。また、運営について、こんな資料がほしいということも含め、ご意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>いくつか質問したい。まず、掲載されている施設は、全て公の施設と考えて良いか。例えば、「多摩エコにこセンター」は設置者が環境組合で運営委託となっているが、公の施設にあたるのか。</p> <p>2点目に、運営者の欄に運営委託と記載されている施設は、運営だけを委託しているという意味だと思うが、維持管理はどうしているのか。直営で行っているのか。</p> <p>同様に、指定管理と記載されている施設は、維持管理も含めて指定管理に出しているということか。</p>
事務局	<p>1点目については、公の施設ではない施設もある。公の施設の定義も含め、次回の会議までに確認する。</p> <p>2点目については、施設の維持管理は直営で行っている。</p> <p>3点目については、お見込みのとおり。</p>
委員	「エコプラザ西東京」は職員体制5名と書いてあるが、その人数で9時から21時まで対応しているということか。
事務局	この施設は、建物内に市の環境政策担当課が入っている。エコプラザの運営に関しては、1日3名体制でこの時間をフォローしていると聞いている。
委員	「西宮市環境学習サポートセンター」の職員体制について、36名のうち正規が6名いて、施設管理と事業費を合わせて2,100万円では運営できないのではないか。ボランティアでやっているのか。

委員長	<p>「自然環境センターとの一括委託」と記載されているように、西宮市の持っている海辺の施設や、環境保全活動として湿地帯の復元や、キャンプ場の委託なども受けており、活動拠点として3～4つを持っている。そういったものを含めると、LEAF自体に約1億円の収入がある。</p>
委員	<p>運営の体制とランニングコストが明確になっていないと正確な検討ができない。「中央区環境情報センター」の運営委託を小学館集英社プロダクションが3,300万円で受けているが、8名常勤させると8,000万～1億円はないと合わない。CSR的な要素や、他にも多くの施設を一度に受ければ効率が良くなるという論理があるのかなど、取材すると面白いのではないかな。</p> <p>運営については、費用や、誰が運営していくのかということがとても重要で、資料1の「運営」のところに、「メタボリズム」と「市民参加」に加え、「方法」がないといけないと思った。お金や運営について、議論が必要だと思う。</p>
委員	<p>同じことを考えていた。ランニングコストは、施設により活用方法がそれぞれ違っており、例えば、指定管理費の1億5,000万の中身として、維持管理がいくらで、運営がいくらでそのうち事業費がいくら、という内訳が見えてこない、比較・分析ができない。また、直営と指定管理を比較するためにも、記載方法を工夫する必要がある。それを横に並べて比較できるような資料を作ってくださいと議論しやすい。</p>
委員	<p>視察施設一覧、施設類型、運営形態がそれぞれ別の資料になっているが、近隣の企業と地域との連携が強いところは、地元のNPOに頼みやすいなどの方向性があるようなので、分類と施設が1枚で見られると比較しやすい。</p>
委員長	<p>資料のつくり方は、次回に生かしてほしい。</p> <p>先ほどの「西宮市環境学習サポートセンター」の運営委託先のLEAFについて、ここに映っている写真は、環境学習サポートセンターの水族館だけで、ランニングコストについても、このセンターの運営費を書いている、LEAFが環境学習都市として請け負っている他の費用は入っていないと思う。各企業から寄付された水槽に、寄付をいただいた企業名を記載したり、山のキャンプ場に「この地域にはどういった生き物がいます」という看板を立てるのも、企業からの寄付で企業名を入れたり工夫をしながら、1億円ほどの費用で運営していると思う。</p> <p>西宮市の良いところは、環境学習都市宣言をしているところ。もともと市の職員だった方が、退職されてLEAFの活動を始めたという背景もある。</p> <p>「サステナブルシティ」とはどうあるべきかを学ぶために、アメリカのバーモントに市の助役と一緒に視察に行くなど、先進的な取り組みをしており、普通の環境系のNPOとは少し違っている。</p>

副委員長	コストともうひとつ、アクティビティーについて、来館者数や年間のイベント本数などがあると、比較できて良いと思う。
委員	武蔵野市がどのくらいお金をかけるつもりがあるかということが重要。議論をしていく中で、夢が広がってアイデアもいろいろ出てくると思うが、限界があると思う。最初からお金で制限するとつまらない議論になるかもしれないが、現実的に大切な部分なので、そこを加味しながら意見を出していかないと進まないと思う。
副委員長	公設公営が前提だと市の持ち出しとなるが、最近の事業運営の形態は公設民営など、官民連携の手法が多様になっている。指定管理もその一部だが、完全な公設として管理をどうするのか、また、第三の方法もあるので、その辺も加味していきたい。それから、収益を出すか出さないか、例えば入館料を取るとか、教育費用を取るとか、積極的に収益事業をやるとか、その辺の多様な運営形態のメニューをもう少し研究したら良いと思う。
委員	市役所もずいぶん指定管理制度をとっているが、事業の委託や管理の委託、例えば、清掃費や施設の改修費をどちらが持つのかといった問題もある。指定管理料といっても、実は細分化するとかなり違ってくるので、指定管理者制度を使っている範疇についても、今、いろいろな意見をいただいたので、どの部分が指定管理料になっているのか、また、委託料になっているのか、アクティビティーとしては、どういうことを行っているのか、こうしたことを俎上に載せないで、これだけでは比較が難しい。
委員	<p>アクティビティーの話が出たが、「多摩エコにこセンター」と「エコプラザ西東京」は一度行ったことがある。</p> <p>「多摩エコにこセンター」は、環境の基地として以外に、セミナー会場としてもかなり使われているので、そういう意味では、少し視点が漏れてしまっている。もっと巨視的に全体を俯瞰しながら見る必要があるのではないかと思った。</p> <p>「エコプラザ西東京」は、市役所の隣にあり、常に市の職員がケースバイケースで動員されているので、ものすごく立地の良い場所で上手に運営をしていると思う。</p>
委員長	<p>「多摩エコにこセンター」は、確かに教室なども多くある。もともと 80 年代にごみ活動をやっていたお母さんたちが運営している施設。</p> <p>「板橋区エコポリスセンター」も、リニューアルをしてからは指定管理で企業が運営しているが、もともとはずっと住民参加でやってきていた。環境教育のプログラム作成に関わっているが、小中学校の副読本を作成する際には、校長先生や環境関係の活動をしている住民が委員として入り、エコポリスセンターの職員も必ず傍聴している。この施設も、昔の展開から少し変化してきてい</p>

	<p>るので、もっと中身を調べて、整理していく必要があると思う。</p> <p>コストに関しては、最初からお金ありきではなく、結果としてこれくらい費用がかかるということを検討していくことが必要だと思う。視察予定の豊田市の施設では、こうした運営のことを詳しく聞いてこられたら良いと思う。豊田市の施設の運営NPOの方も、常に勉強にいられていた印象がある。環境のトピックスは非常に膨らんできているので、かつて勉強したことだけでは対応できなくなってきていることもある。運営のあり方も、多様な展開になるのではないかと思う。</p>
委員	<p>「港区エコプラザ」に少し関わっていたことがある。駅のすぐ近くで良い場所にあるため、周辺の企業が研修をしたり、自分たちの会社のCSRのイベントを行ったりと、多くの企業に使われる施設になっていた。港区は大使館や大企業があり、土地柄や住民の特徴など、武蔵野市とは状況が違うので、参考にならないかもしれないが、環境カウンセラーとして、会社の組合員に話をしてほしいとか、企業のこういう部分に対し講義してほしいと言われることもあり、意外と市民向けだけではない使い道やニーズがあると感じるので、武蔵野市だったらどういうものがあるのか考えてみるのも良いと思う。</p>
委員	<p>「港区エコプラザ」に行った時に印象的だったのが、周りに民家がなく、会社帰りの人が立ち寄って、講座に参加していることだった。環境に積極的に取り組む企業はステイタスになるため、参加が増えていると聞いた。エレベーターの中で杉の香りがして、とてもスタイリッシュなかつこいい施設だった。</p> <p>「多摩エコにこセンター」は、壁の展示など、手作りのものがたくさん掲示されていて、お母さんたちが手作りでがんばっている印象がある。中心になって働いている方から、掃除も含めて全て自分たちでやっていると伺った。</p> <p>「京エコロジーセンター」は、コミュニケーションに力を入れていて、市民ガイドの「エコメイト」に対する最初の研修で、どうやって人に伝えるかをポイントにおいて研修していると伺った。すごく学びがあったが、少し残念だったのは、周辺に住宅がなく、遠くに住んでいる人が来ていること。本当はもっと周辺の方たちが、気軽に寄れるようなところがあると良いと思った。</p>
委員	<p>「多摩エコにこセンター」は、八王子、多摩、町田にかかる多摩ニュータウン環境組合がやっていて、各市が議員を出して、ひとつの仮想自治体を作って運営している施設。一部事務組合の施設なので、定款等により、かなりしぼりがあり、他の施設とは立ち位置が違うと思う。</p>
委員長	<p>「港区エコプラザ」は、周りに住宅がなかったが、武蔵野市のエコプラザの周りは住宅だらけだと思う。</p>
委員	<p>「西東京市エコプラザ」は、開設当時と比べて今はだいぶ住宅も増えて、環境が変わってきたため、来る方もかなり変わってきている。</p>

<p>委員長</p>	<p>「京エコロジーセンター」は、後方に青少年科学博物館がある。なぜ連携をしないのか尋ねたところ、縦割りが理由とのことだった。子どもたちや高校生が遊びに来ていたり、あそこで育ったと言う方もいたりするほど、展示の仕方がユニーク。当時、最先端のCOP3の対応でつくられているため、施設自体がエコロジーで、非常に考えられた施設になっていると思う。</p> <p>どういった内容の啓発をするか、機能を備えるかにより、いろいろなNPOがいるが、運営については、すべて上手くいっているかということ、環境の一側面でしかないのが難しい。そういった意味で、機能と運営とをどう考えていくかが大切だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>環境全体で考えた時、エコプラザに誰が来るかということが大切。全市的な施設として多くの市民に来ていただける施設にならないと意味がない。将来的には外国からも見学にくるかもしれない。</p> <p>ここの財産は何かと考えた時に、近くに市役所や運動施設があるのも、周辺に住民がたくさん住んでいるのも財産だと思う。そういったことも踏まえて、全体として、どうやって繋がりをつくっていくかが課題。</p> <p>例えば、昨年度は武蔵野プレイスでやっていた環境フェスタを、今年はクリーンセンターで開催するので、武蔵境の人は来づらくなる。クリーンセンターで実施するからには、ここの資源を活かしていくべきだと思う。</p> <p>玉川上水の近くに境山野緑地（さかいさんやりょくち）という昔からの雑木林がある。クリーンセンターの周辺も地続きではないが、もともと武蔵野の森があったところで、今も体育館の前の林には、大きなクヌギの木があり、まだ実施には至ってないが、境山野緑地でどんぐりを育て、雑木林の発祥ではないが、苗木をここに持ってきたいということをクリーンセンターの計画の中で考えている。こうした発想をしなければ、興味を持ってもらえないのではないかなと思う。</p> <p>また、管理については、管理をルーズにした方が良い部分と、しっかり管理した方が良い部分と両方ある。中には、テリトリーをつくり、囲い込んでしまう傾向がある団体もあるので、中央公園の原っぱのように、誰でも入って良い、何をやっても良いという器があって、子どもが自由に入れたり、すごい先生が中にいたりして、発見があるような、ワクワクする場所になると良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>周辺整備協議会でごみをテーマに、先行してエコプラザの議論をしてきた中で、ひとつだけ結論が出たのは、エコプラザは、リサイクルやリユースを目的とした施設にはしないということ。その議論に至った過程で「多摩エコにこセンター」の視察があったが、1階フロアがリサイクル品の販売スペースになっていて、粗大ごみとして回収されたり、持ち込まれたりしたものが、きれいになって展示されていて、必要としている人に、手頃な価格で買い取られていく</p>

	<p>という場所だった。「透明の衣装ケースが大人気で、かなり売れる」と職員の方が話してくれたが、それを見て聞いて、武蔵野のエコプラザはこれではない、貴重な空間をリサイクル品で埋め尽くし、ゴミの減量化になるのかと考えると、確かにリユースの促進にはなるかもしれないが、それを目的化した途端に、そのリユースの意味、環境負荷の低減ということを理解する市民が逆に減ってくる、もしくは理解が深まらないのではないかと考えた。</p> <p>1回目の会議で、周辺整備協会の中間まとめをお配りし、エコプラザの内容を説明させていただいたが、そのイメージからすると、資料2の3枚目「環境施設の類型」で、分類されている①から⑤の、どれにもあてはまらないと思う。分類名からすると、⑤「活動支援型」に入りそうに思うが、特徴を見ると「情報発信を中心に」となっていて、駅ビルのようなアクセスの良い場所でもないし、少しイメージが違う。私たち周辺整備協議会が議論してきたイメージというのは、事務局が視察してきた環境系の施設とは、少し違うのかなと思う。</p>
副委員長	<p>同じことを思っていた。類型化というのは、全部出揃ってから類型化する意味があるが、まだ出揃っていない。だから、何かを型にはめて適用するという段階ではない、これからつくるものが次の類型になるかもしれない。</p>
委員長	<p>組織ができる時に、新しい価値や共通の価値をどう認め、お互いに環境というトピックを通して、自己実現していくかということに向かわないと、上から与えられる場・スペースになってしまう。</p> <p>福島での支援を続けているが、放射能の除染などとは別に、壊れてしまった人間関係・コミュニティーをどう再生していくかということが、今一番問われている。単なる行政の下請けでなく、将来の子どもたちの世代を、皆で関わって育てていく必要がある。単にNPOに委託すれば良いというものではない。</p> <p>北海道の旭山動物園は、経営的に破たんして、行政からの支援は期待できないから、動物園の職員たちが手作りで宣伝するなどして、立て直した経過がある。そういった機運がないと、単なる指定管理者としてやっていくだけでは生かすきれない。運営管理をどうしていくかということを含めて、この会議はとても大変なことを問われていると思う。</p>
委員	<p>武蔵野市で新しい形の運営プランがつくれたら、全国から視察も来るだろうし、とても意義があることだと思うが、エコプラザが何を指すのか、私たちはどういったことを大切に、どんな指標を目指すのかを決める必要があると思う。資料2でさまざまな施設の事例が出ているが、それぞれの施設が何を大切に、何を指しているかという評価指標がまとめてあると参考になると思った。</p>
委員長	<p>クリーンセンターの建て替え時の基本方針は、①地球温暖化を防ぐ施設として、②コミュニケーションで地域力を高めていく、③持続可能なまちづくりを</p>

	<p>する。の3つ。工場棟とエコプラザの機能があるが、エコプラザについては大枠のところは決まっていない。そこにどういう哲学、色をつけていくのかを考えていくところ。</p> <p>悩ましいのは、マネジメントに関しては、「ヒト・モノ・カネ」がつきまとうので、この辺りが問われているのだと思う。運営やマネジメントは、日本人が一番苦手なところだと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>武蔵野市の人口は15万人近くだが、この中で何人が環境やエコを知っているか。武蔵野市だけではなく、一般的に市民が求めているのは、より良く安全な地に、二世帯・三世帯と、長く住み続けたいということ。</p> <p>企業からのアドバイスとしては、コピーは誰からも信用されないの、いろいろな意見が出てくる中で、エコプラザがなんのために、何をするとところなのかをしっかりと考えないといけないということ。</p> <p>また、これまで何年もかけて検討してきた経過があるが、委員の皆さんはそのことを知っているが、15万人市民のうちの多くの知らない人に対し、どういうことをするのが武蔵野市のエコプラザなのかを伝えて行かないといけないと思う。</p> <p>もともと来ない人たちに、どうしたら来てもらえるかという視点が、企業でも、エコプラザでも、考え方のベースは同じだと思った。</p> <p>マーケティングの視点からは、武蔵野市には、どういう人がいて、昼と夕方、平日と祭日ではどう違うか、イベントの時には、どれだけの人が来るかということや、20年後30年後の武蔵野市がどうなるのかということ把握したうえで、エコプラザをどんな施設にしたら良いかを考える。</p> <p>マーチャンダイジング※では、いろいろな施設を視察された中で、武蔵野市のエコプラザのベクトルと必ず合う言葉やキーワードがたくさん出て来ると思うので、それを議論して行って、常に進化させていく。このことが結果的には、持続させ、次の世代につながるというエコプラザの役割を磨き上げていくことになり、一番重要と感じている。</p> <p>※マーチャンダイジング：ある製品について、その製品を消費者に買ってもらうようにするための計画、および活動のこと。その内容は、商品の品揃えや価格設定から、店舗レイアウトの計画、商品自体の企画開発など非常に多岐にわたる。MD。)</p>
<p>委員</p>	<p>以前、委員長が環境教育はプロセスだとおっしゃっていて、子どもに対してどういう教育をするかを考えた時に、最近環境教育といっても、温暖化はないという学者がいたり、あるという学者がいたりする。そんな中、どうすれば良いのかというのは、教え込むことではなく、哲学だと思う。</p> <p>自分たちがやっていることが環境に負荷を与えているということは分かって</p>

	<p>いるが、それがやめられない状態の中で、子どもたちはどこを取っていくのか、どこを我慢したら良いのかという哲学ではないかと思っている。</p> <p>エコプラザでも、それを教えることはできないが、そういうものをつかめる場所になることが夢。そうでないと生き残れないし、持続していけない。</p> <p>企業の方も同じように考えていらっしゃると思うので、知恵を集めて、コピーではない新しいものを考えていけたら良い。</p>
委員	<p>新クリーンセンターがかなり注目されている中で、エコプラザがどう取り組んでいくかが重要な問題だと思う。総合的な環境啓発という役割を持たせるとなると、そこに携わる人が足りない。環境全体のことを啓発する視点で見た場合に、そのあるべき姿を決めていかなければいけないという側面があると思う。</p>
委員長	<p>基本的に、今、決まっていることは、新クリーンセンターは建てたけれども、昔の施設は生かしていく、廃棄物にはしないということ。環境をトピックとして、どう交流の場をつくっていくのか。21世紀は環境の世紀と言っている中で、そこでの生き方・暮らし方が問われている。プロセス学習の重要性はそこにある。正解は自分たちでつくっていかないといけない。ごみの焼却場ができただけでは止まらないということが、今、問われている。</p> <p>また、例えば、空気のような状態の組織でも、「ヒト・モノ・カネ」が伴うので、マネジメントのあり方も含めて議論しなければいけない。今日は第一段階としての施設の運営のあり方についての資料を提供していただいたが、これについては、もっと議論を深めていかなければならない。3ページの展示と学び、交流、活動とがミックスしたところに、新しいエコプラザのマネジメントが問われているのだと思う。</p>
委員	<p>展示など、4つの機能を含め、ここに市民の年齢などいろいろな見識、知識の人たちが、どういったところにベネフィットを感じるのかを整理すると、意外と合っているということがわかる。そこがエコプラザの一番の目的で、わざわざ行きたくなる気持ちを引き出したいと思う。</p>
委員長	<p>クリーンセンターの議論をしていた時に、若い世代の力を活用しよう、市民公園で遊んでいるお母さんたちのエネルギーを使いたいという思いがあった。某区に住んでいたが、そこと比べると、力を持った市民の方がたくさんいるのに、生かしきれていないと思った。でも、生かされたからこそ、クリーンセンターの建て替えができたのかなとも思う。よくよく見ると農地も緑もあり、まちづくりのひとつの拠点としても、機能させられるのではないかと思う。</p>
委員	<p>資料2の4枚目の運営形態の資料は、議論の材料として良い。ただし、課題は整理しているが、メリットも示さないと議論できないと思う。そこを意識してもう一度資料を作っていただくと、議論しやすくなる。</p> <p>例えば、直営の場合、市との繋がりが非常に強いということは、デメリットも</p>

	<p>あるかもしれないが、一方でメリットもあると思う。環境教育的な取り組みを学校と連携して一緒にやろうと思って、指定管理者にやれと言っても難しいと思うが、直営であれば、やりやすいことが絶対にある。そのようなメリットは他にもあると思う。そういったことも含めて整理していただくと、今後の議論に繋がりやすい。</p>
委員	<p>この議論は、毎回最後の方に学校教育が出てくるので、面白いと思う。学校教育が大事であれば、子ども目線の話にしていけないといけないと思う。レベルを落とすというのではなく、子どもたちが次代の人、主役になるので、そこを考えながら議論すると、答えが出てくると思う。</p>
委員長	<p>環境教育は、environment education か、environment education & learning と訳される。ここにいる委員の方々は、具体的に learning について意見を言ってください。学校教育に対して、少し敷居が高いという考えがベースにあると思うが、今回、校長先生に入っていたことで、少し突破口が見つけれられるように感じている。</p> <p>クリーンセンターにはお子さんが毎日のように来ていて、すごく興味を持っている。総合体育館に来ている人たちにクリーンセンターにも来てもらい、さらに奥にあるエコプラザまで来てもらい、それをどうアプローチするのかということも大事。お互いに学び合う関係性をどうつくるのかということを考えていくと、学校にすべてを任せてしまうということにはならないと思う。</p>
委員	<p>エコプラザに人が来ないといけないと、あまり考えない方が良いのではないかなと思う。2回目の講義を聞いて、印象に残ったのは、私たちがやろうとしているのは環境教育だが、機能を設計することで、箱物をどうデザインするかという話ではない。結果的に、武蔵野市民の環境の知識が増え、それによって意識が変わるということが達成されれば良いのであって、エコプラザに人が何人来るのかは、直接的な目的ではない。逆に、エコプラザでイベントや学習会をやって人を呼ぶ手立てを考えるよりも、20あるコミュニティセンターで、出前講座を毎週どこかでやっていて、近所で歩いて来られるという方が大事だと思う。そうやって、キャラバンをやって、環境教育をした方が、実は啓発効果は高いかもしれない。事務所はエコプラザにあっても、必ずしもそこに人が来るようにしなくても良いと思う。</p>
委員長	<p>これまでいただいた意見を含めて、次の会議につなげていきたい。</p>
事務局	<p>ご意見を頂いた内容を整理したい。</p> <p>まず、ランニングコストや詳細な内訳については、私どもの一存では公表できない部分もあるため、各施設の公表状況等を確認し、調整して作成したい。</p> <p>視察のまとめと運営形態を1枚で見える化することに関しては、デメリットや課題を内々で聞いているものも多く、ご配慮いただけたらと思う。</p>

	<p>また、年間イベント数や来場者数等のアクティビティーは、事務局でも把握しているので、資料のレイアウト等を考えながら、出せるものは出していく。</p> <p>たくさんのご意見をいただき、いろいろな機能の話が出ている中で、市としても、運営をどなたにお任せするのかということが、非常に大きな課題と考えている。具体的な機能や内容について検討したものを実践してくれる運営者を見つけられなければ、開設の見通しが立たないという可能性も出てくる。</p> <p>事務局としては、運営者の選考に関しては、公募のプロポーザル等を行い、決定した後も、皆さんと一緒に施設について考えていくことをイメージして、進めていきたいと考えている。</p> <p>9月以降の会議の進め方については、ざっくばらんな話をしつつ、大枠を決めていき、事業者からさまざまな提案をいただけるように、要求を積み上げていけたらと思っている。</p>
委員	<p>運営は外に出すことが前提か。直営はあり得ないということになるのか。</p>
委員	<p>直営で私たちがやった場合、環境について、どういったアクティビティーができるかという知識が決定的に足りていない。そういう意味では、当面どなたかに運営をお願いしながら、丸投げではなく、市民とその受けた方が入って運営する委員会方式のような形にして、市も入って、回していくということを考えている。それですべてが決まるというのではなく、回しながら、また形を変えていくということもあると思う。</p> <p>当面、誰がその施設を回すのか、受ける人がいるのか、私たちが受ける人を探ることができるのかということが課題であり、武蔵野市の歴史や、さまざまな条件等を踏まえたうえで、市民参加で運営をしていただける方を探すべきではないかということ、今のところ、内部では検討している状況。</p>
委員	<p>その議論は、直営か指定管理かという議論とは角度が違っていると思う。要は、そういうことができる専門的な方が市の職員の中にいないということか。だとしても、だからすぐに指定管理あるいは運営委託ということにはならない。実際に、環境施設でそういう事例はないかもしれないが、例えば直営で専門家だけ嘱託職員で雇って運営している公の施設もあるので、そういう選択肢も含めて考えないといけないのではないか。</p>
委員	<p>今、私どもが言っているのは、私どもに運営する能力がないので、どうやったら運営してくれる人を見つけられるかという話。仮にどなたかにお願いすることができるとしても、一定、公正な公募等による選考の手続きが必要となる。現時点では、この方にやってもらえばできるという知識はないので、広く、プロポーザルをすることを提案させていただいた。</p>
委員	<p>運営を外に出すことが前提になってくると、直営のメリットやデメリット、指定管理のメリットやデメリットを議論する余地がなくなってくる。議論の順</p>

	<p>番は、施設の望ましいあり方があり、それを実現できる運営方法を検討するのではない。それが公の施設なら、直営にするのか指定管理にするのか、仮に直営の方が市民にとってメリットが大きいというなら、専門家はどのように採用するのかという順番で、きちんと議論できるようにしていただきたい。</p>
委員長	<p>こうした議論は、きちんと議論されるプロセスが大事。私のイメージとしては、エコプラザの運営は、クリーンセンターの管理を任されているのとは違い、オールマイティ的というのか、そうしたことも必要になるし、コミュニティー、地域力を高めていく場、プレイスであり、スペースであるというところに、どうマネジメントしていくのかという視点が要るということ。</p> <p>行政の考えていた検討工程からは、ワンプロセス増えたが、今日、出していただいたところでは、運営のあり方の議論ができたと思う。皆さん、ありがとうございました。</p>

4 その他

発言者	要旨
事務局	<p>次回の視察と今後の会議について、資料3「豊田氏環境啓発使節 eco-T・とよたエコフルタウンの視察について」、参考資料「環境学習のススメ eco-T 利用ガイドブック」、「とよた ecoful town GUIDE BOOK」の説明。</p>

閉会